

実践研究

## 特別活動 実践研究部

研究主題

令和の日本型学校教育

主体的に参画し、友達の思いに寄り添う  
児童主役の学級活動

安松小学校

井上 真緒（リーダー）

松井小学校

生熊真友子

担当指導主事

高島 忍

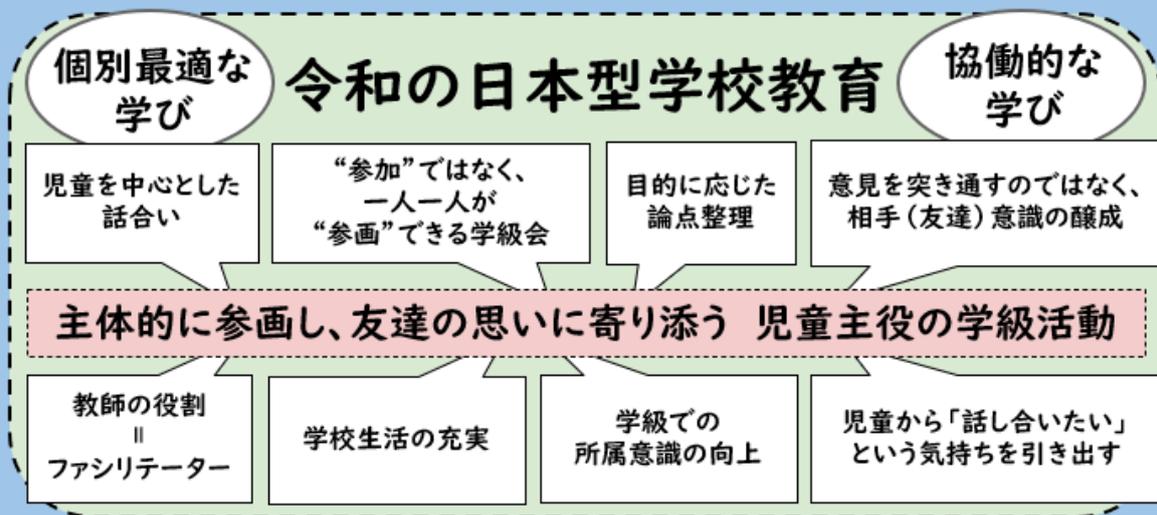
# 研究主題 令和の日本型学校教育

～主体的に参画し

友達の思いに寄り添う

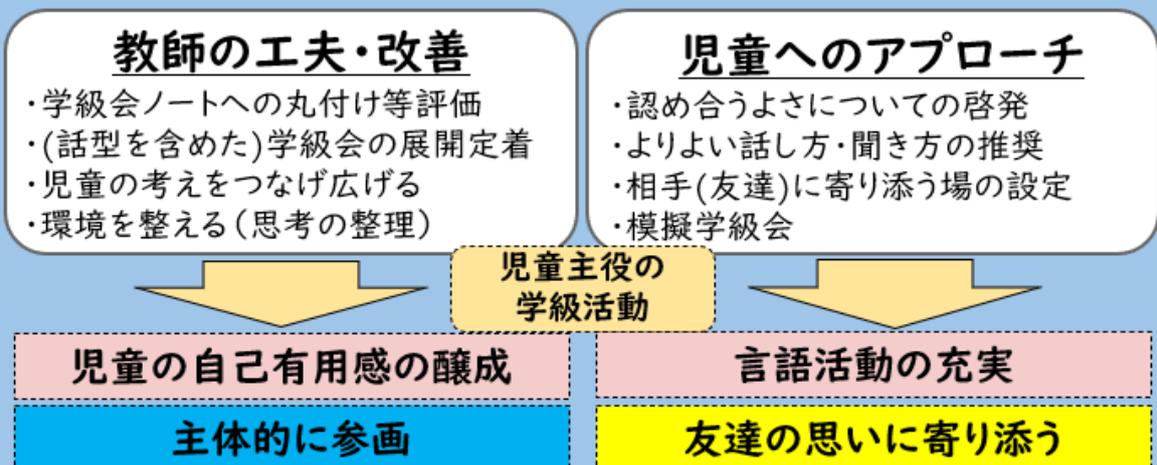
児童主役の学級活動～

## I 研究主題及び副題について



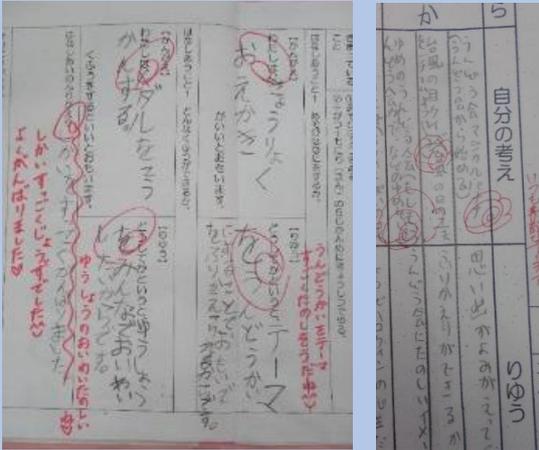
## II 主題及び副題達成に向けて

### 学級活動における手立て



# Ⅰ 事前指導

(1) 児童が主体的に参画するための学級会ノートの活用



- ◎一人一人が自分の意見をもった上で、話し合いに臨むことができる
- ◎花丸やコメントをすることで、安心して発表できるようになる

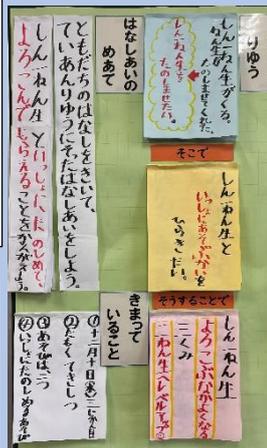
(2) 学級会までの見通しをもてるよう学級会コーナーを活用



- ◎児童が活動の見通しをもって計画・参画ができるようになる
- ◎話合うことが整理され可視化される
- ◎「提案理由」や「めあて」が共有できる

(3) 児童が必要感をもって話し合いに参加するための提案理由のキーワード化

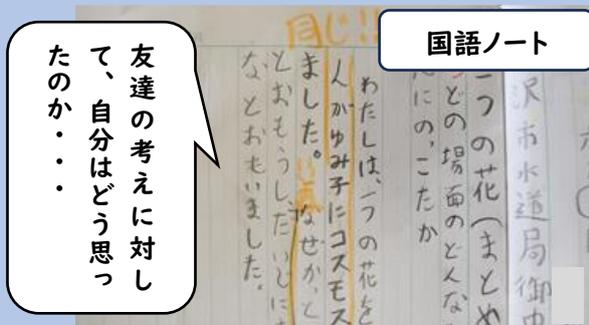
新しい一年生が喜んでくれて、なかよくなれると思います。そして三組が力を合わせることで、二年生へのレベルアップもできると思います。



レベルアップ  
なかよく  
なれる  
よろこぶ

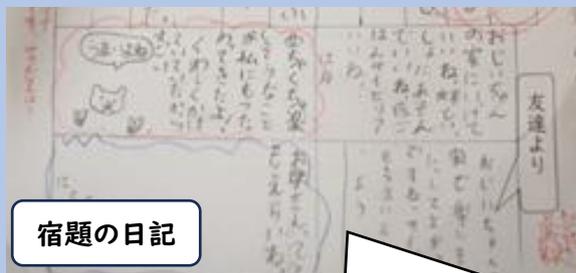
- ◎キーワードが道しるべとなり、論点がズレにくくなる
- ◎短い言葉で話し合いの要点をつかむことができる
- ◎話し合いのねらいが明確になる
- ◎みんなで共通理解がしやすくなる

## ～教科等横断的な視点～



国語ノート

友達の考えに対して、自分はどう思ったのか・・・



宿題の日記

- ◎日記の宿題に、コメントをし合うことで、友達の思いに触れて、自分の考えを言えるようになる
- ◎聞き手としての姿勢が育つ

## 2 本時の指導

### (1) 思考を整理するための黒板の活用



- ◎児童が『今どこのことについて考えているか』が一目でわかる
- ◎理由を板書することで、『比べ合う視点』が焦点化し意見が出しやすくなる
- ◎意見の関連が見えて考えが深まる

### (2) 話し合いにおいて折り合いをつけるための教師の声かけ

宝探して、宝が見つからなかったら、新1年生が楽しめないと思います・・・



〇〇さんの心配意見に対する解決策がある人はいますか？

宝が見つからなかった子にも、景品をあげるのはどうですか？

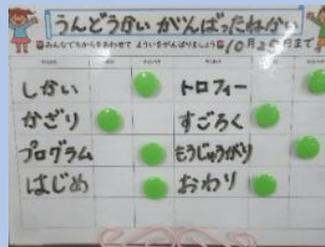


それなら新1年生も楽しめると思います！



## 3 事後指導

### (1) 見通しをもたせるための活動計画の作成



- ◎役割分担を明確にして、協力しやすくなる
- ◎やることははっきりして、見通しをもって実践することができるようになる

### (2) 振り返りを可視化するための掲示

第6回 めだまやき会議 議題「ワンチームおつかれ会」【ふりかえり】



今日の学級会の「キラリ」

◎友達のよかった発言・聞く態度・計画委員のこと

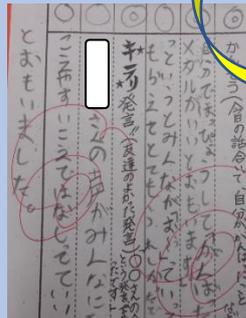
- ◎君は〇〇さんがテキパキと命を講めていてすごいと思いました。
- ◎みんなが揃っているのを見て感動しました。
- ◎〇〇さんが、たくさん意見を言っていて新しい意見も多くてすごかったです。
- ◎〇〇さんは、誰かの意見を否定することなく、受け止めながら自分の意見を言っていました。
- ◎〇〇さんが、みんなをまとめる意見を言っていました。
- ◎〇〇さん、話がどこおつた時に、新しい角度の意見を言っていました。
- ◎ノート記録の〇〇さんが、パソコンで打ち込むのがとても見やすかったです。
- ◎みんながいつもよりも笑顔で発表していて、学級会も雰囲気よかったです。



### (3) 他者と協力して活動する経験



- ◎決まった役割で準備し、みんなで実践する楽しさを味わい、達成できた喜びを実感できる



## 4 教科等横断的な視点～安心して発言できる学級づくり～

### (1)認め合う時間の確保



- ◎各教科でよさを見つけ合う機会をつくることで、互いを認め合う雰囲気が生まれる
- ◎良さや頑張りを掲示して共有することで、友達関係が深まり、学級全体が温かい雰囲気になる

### (2)少人数→全体の順番での発言



- ◎どの教科においても話し合い活動の場を設けることで多くの経験を積むことができる
- ◎少人数だと緊張が少なく、自分の意見を言いやすく、発言へのハードルが下がる

## 5 研究を通して

### 成果

- ◎年度当初は発言が苦手だった児童が、自分の考えを自信をもって発言できるようになった
- ◎友達の意見に対し、否定することなく寄り添う肯定的な発言が増えた
- ◎提案理由をキーワード化することで、話し合いの目的の共通理解を図ることができた
- ◎教師が児童の考えをつなげることで提案理由にそったより深い話し合いができるようになった

### 課題

- ・折り合いをつける経験を繰り返し積むことで、「自分もよくてみんなもよい」という合意形成ができるように継続して話し合いをしていきたい
- ・教師がファシリテーターとして適切なタイミングで介入することで、話し合いの質を高めていく必要がある
- ・一人一人の意見を尊重するために、比べ合いの活動では、理由に着目する。それに対して自分の意見を発表する力を低学年の段階から少しずつ意識させたい

### 参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省
- ・「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動」国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・「特別活動で日本の教育が変わる」杉田洋／稲垣孝章
- ・「特別活動で学校が変わる！」杉田洋／特別活動希望の会
- ・「小学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省